

## IV 大阪市大正区での聞き取り

大正区における沖縄出身者の集住地区が、土地区画整理により戦前と戦後とは異なり、またそのときにクブングァーというところで、スラムクリアランスがあったこと、という事実をきっちり押さえてみたいということにまずこだわって、聞き取りをした。聞き取りにあたってのマニュアルは以下の通りで、■1～4がその聞き取り結果となっている。■5～12については事前、事後の調査結果を記している。関心はほとんど広がり、不明点がどんどん増え、「謎」も深まり、そして事実が確認されの繰り返しであったが、途中経過報告という形であるが、以下にその結果を記す。

### <事前用意した聞き取りマニュアル>

お忙しいところ、申し訳ございません。私は大阪市立大学の学生ですが、今大正区の歴史のことを調べております。特に戦後の土地区画整理事業と、材木置き場の移動と、それに伴う住宅の移動に興味を持っております。昭和30年代中頃（1960年くらい）で、35年から50年ほど前のこととお聞きしています。それくらいの歴史について、よくご存知の方はおられませんでしょうか。

- ・このへんは沖縄出身の方が多く聞いておりますが、何割くらいの方がそうなのでしょう。沖縄出身以外の方では、どちらのご出身の方が多いのでしょうか。
- ・昔は材木置き場があった（海に浮かべている、貯木場）と聞いていますが、材木業関係のお仕事が多かったのでしょうか。
- ・クブングァーという窪地に、簡易な住宅を造って住んでおられたとお聞きしますが、どのへんにあったのでしょうか。何世帯くらいありましたでしょうか、どのような様子のところだったのでしょうか。どちらのご出身の方が多かったのでしょうか。
- ・材木置き場が住之江区のほうに移転したと聞きますが、それはいつくらいのことでしょうか。そこに働いていた人はどうなされたのでしょうか。
- ・土地区画整理事業によって、移転されたとお聞きしますが、それはいつごろでしょうか。移転についての思い出など何かございますでしょうか。
- ・移動先で平尾や南恩加島あたりに移った人も多く聞いていますが、そのような方はおられましたでしょうか。
- ・この辺では、盆踊りとか、沖縄のエイサーみたいな行われているのでしょうか。
- ・移転に反対運動もあったと聞きますが、いつごろのことでしょうか。どういう方が中心的に動いたのですか。どのような反対運動をなされたのか、どのような条件を出して戦われたのか、よその地区からも協力があったのか
- ・このへんの歴史のことを（土地区画整理や材木置き場の移転など）、よく知っておられる方をどなたかご存知ないでしょうか。
- ・沖縄からこちらに来られた人が多いというのは、どういった理由からなのでしょう。

## ■ 1.

小林公園にて

1月9日、ひしひしした寒さの中で、環状線の大正駅から小林公園にたどり着いた。小林公園を選んだのは、ちょうど北恩加島と平尾のほぼ真中にあるからだ。最初はおばちゃんを狙っていたのだが、さすがの大阪のおばちゃんでも男三人組みを信用してもらえない気配はなかった。仕方なく、挨拶と微笑をおじちゃんに送り始めた。今度は功を奏した。大正生まれ、大正育ちで65歳ぐらいの二人に50分ほど話を聞かせてもらった。聞きこみ中、話が話題から逸れるときもあるし、おじちゃんの声が聞き取りにくいこともあって、以下のように、まとめるまでには、やっとの感じだった。

- 沖縄出身の人が今、大正区人口の三割か四割ぐらい占めている。それ以外、九州、四国、鹿児島県の徳之島から来た人が多いらしい。
- 昔材木関係の仕事が多かったかどうかについての答えはあいまいだったか。「難波島」の話聞いた。三軒家東三丁目の辺りで川と貯木場に囲まれて島の形になった。難波に近いから、「難波島」という名前をもらったそうだ。
- 簡易住宅は平尾小学校の裏と片山鉄工の裏（今はゴルフ場）にあった。俗称「ばらっく小屋」。主に沖縄のひとが住んでいった。自分が建てた家なので雨漏れもひどかったが住民同士の間の繋がりが強かった。特に沖縄人の間の繋がりと助け合いが印象的だった。しかし沖縄の人に対して近寄りた印象もあった（昔から、叩かれていたせい、ずっと差別されてきたせい、自分自身が劣等感を持っているせい）。
- 土地区画による移転が沖縄復帰から4~5年後に始まった。その時、働いた人がすでにお金を持っている人が少なくなかった。移転当時について一人は沖縄の人が普通の人々とは別行動を取っていたと話した。もう一人は移転のとき自分がまだ子供で、家の洗面台の下から、石のカエルが出てきたことを思い出に残っていると話した。
- 今でも、年に二回、9月と4月に沖縄のエイサーが行われる。そのとき全国から沖縄の人がたくさん集まって来るそうだ。
- 移転に対して反対する人が多かったが、デモのような反対運動がなかったそうだ。反対は土地を持っている人と、区画の後少ししか面積が残らなかった人が中心であった。また、土地の買収は強制的に行われたそうだ。移転の条件について、平等と格差ゼロの例が挙げられた。
- 住みついた人に呼ばれて、こちらに来た沖縄の人が多そう。また来たばかりの人はまだ機械化されていない、汚い材木関係の仕事を従事した人が多かった。

(谷陽・金学軍・宮脇秀文)

## ■ 2.

去年(1999年)の12月29日の11時ごろに、10人ぐらいのお年よりの方が平尾公園におられたので、その方々に聞いてみました。沖縄出身の宮城さんという方から主に聞きました。

土地をかさ上げた理由について：

北恩加島は、戦争で焼けた上に低地帯だったというのが土地をかさ上げた理由だった。昭和新山のほうから南恩加島のほうに段差があってそれを埋めるためでもあったそう。 (主にインタビューをした人ではないが) 新橋川からきたそうだがその新橋川の川幅を広くして、その土や大阪湾のほうからの土砂などを使って地上げされた。大体2mぐらい上げられたそう。

材木置き場について：

昭和30年後半ぐらいには材木置き場はだんだんなくなっていった。昭和40年ごろもまだ残っていたが、会社は南港や岸和田のほうに移った。昭和新山のほうに浄水場があるが、そこは最後まで材木置き場だった。

移転の反対運動について：

平尾の人は移転の反対運動についてはあまり知らないそうである。クブングアーの人は立ち退きを拒んでいたが結局移転した。移転先は市営アパートだった。

人口について：

大正区の人口は8万人。沖縄の方は2万人ぐらいいいたそう。しかしたいていは北恩加島のほうに集まっていたために「ほとんどの人が」沖縄人だったという人が多いようだ。ほかには九州四国のほうかなも人が集まってきた。

沖縄の人が集まった理由について：

船などがとまったり工場が多かったりして基本的にこの街は労働者の町であったので、いろんな所から人が集まってきた。材木業でも、とくに飛び流しをする人はかなり収益がよく、普通の3倍ぐらいの給料があったのがここに集まってくる原因の1つとなった。しかし飛び流しの給料がいいだけあって厳しい仕事であった。また、造船業も収入が多かったそうである。

感想：

僕がインタビューしたが、インタビューをしている時はいろいろ聞けとよかったと思ったが、まとめてみると重複しているところや聞こうと思っていたのに別のことに話が移ったりして、結局かなりの部分で肝心な所が抜け落ちていて非常に残念だった。

(足立丈英)

### ■ 3.

サンクス平尾 (商店街) 聞き取りレポート

調査日時：平成12年1月18日 午後5:30～ (1時間弱)

聞き取り先：沢志商店（沖縄のものを中心に食料品を販売）

とりあえず平尾の商店街にたどり着き、飛び込みやすそうな商店を物色した。夕方だったためどこも忙しそうで困ったが、商店街の突き当たりに近いところでおばあさん（おばさん？）二人が店番をしながら話し込んでいるのを発見。おばあさんなら相手してくれて、詳しいかも……。ひととおりのためらったあと、「大阪市大の者で、大正区の歴史を聞いて回ってるんですが……」と聞き取りを試みた。

聞き取りに応じてくれたのは、一人は生粋の大阪人で大正区生まれのおばあさん（昭和3年生まれ）、もう一人は沖縄出身で、歳は更の上というおばあさんの二人だった。話の9割ぐらいは大阪出身のおばあさんの方が話してくれた。

—移転について

まず盛り土事業に伴う移転の話から切り出すと、二人はまさしく該当の人だった。大阪のおばあさんの方がはやく移ったらしく、昭和32年か33年ぐらい。こちらがメインの時期で、沖縄のおばあさんは住んでいた場所が少し違っていたため（？）昭和37年に平尾の方に移つたらしい。当時は割りに乗り気で移転する人と、移転を嫌がるひとが両方いたが、南の方に人が住みはじめると「悪くない」といった感じで最初はためらっていた人も移ってきた。商売をする人の方が先に引っ越したとのこと。隣組の単位で一緒に引っ越すことが多かった。「今年は何軒来るな」と話していたとのこと。その以前、平尾のこの辺りは葱畑以外は何もなかった。仮設住宅は盛り土事業が始まり新しい土地に引っ越すまでの間、住居として市が準備したもの。大阪の方のおばあさんは数ヶ月仮設住宅に住んでいた。

—クブングァーとは？

大阪のおばあさんが、「ああ、あったなあ。でもようわからへん。聞いて来るからちよっと待とき。」と言ってわざわざ店主の息子さんに聞いて来てくれた。その話によると、今の小林とは違う場所に小林町という町があった。恩加島の中ではあるが少しはなれたところでその市電沿いに小川があり、その川沿いにあった少し低い土地のことらしい。ひどく低いことはない。「坂をだらだらと下ってな。」というのはおばあさんの表現。おばあさんの女学校の先生も住んでいたそうだ（おそらく戦前）。戦後に全て焼けた後で、その川沿いにバラックが建ったが、戦前は大きな家もあった。

—沖縄の方は多いんですか？

3割ぐらいかな。

—おばあさんはいつ頃こっちに來られたんですか？

戦時中の挺身隊で岡山・倉敷に來た。大原総一郎さんの紡績工場。戦後はみんなは沖縄に帰らず、親戚を頼ったりして各地に行つた。そしておばあさんは大阪に來たとのこと。挺身隊は当時、村役場で募集が行われ、部落にある程度の人数割り当てもあり、断りにくい面もあったとのこと。おばあさんの他の家族は沖縄に残っている。

それとは別に戦前に沖縄から出てきていた人で、戦争が始まり故郷に帰る人もいた。

クブングァーの立ち退き騒動については、知ってそうでもなかったし、あまりにつつこんだことを尋ねる度胸もなくして質問しなかった。それとなく「いやがった人とかは居ませんでしたか？」と聞いたところ、「うん、土地をもってた人はな〜」ということでした。

沖縄の方のおばあさんからは、最後におみやげにサーターアンダギーを戴きました。

(山田理絵子)

## ■ 4.

12月28日に平尾公園で、70~75歳くらいの二人のおばあさんに聞き取りをした。

★移転して来たときの思い出などありますか？

今、住宅地になっているところ(北恩加島)に材木置き場があった。昔、運河のようになっていた。北恩加島からこの南恩加島に最初来たとき平尾小学校だけがあってこの辺はみな芋畑だった。埋め立てしていた。材木がいっぱい並んでいた。北恩加島に住んでいた。北恩加島のときは雨が降ったら水に浸かったけど、ここに来てからは埋め立てしていたから、水浸からなかったからよかった。

★移転のとき反対運動などがあったと聞いていますが。

それは知らない…

★移転は大体いつ頃でしたか？

今から約45年くらい前ここに来た。息子が小学校1年の時で、今息子が52歳になっているから45年前。出身は北恩加島で、南恩加島へ移り住んできた。大水が出たら北恩加島はよく浸かってしまったから、誘われて移転した。

★この辺には沖縄の出身も多いと聞いていますが…どれくらいですか？

どれくらい多いかは知らないけど沖縄の人多いな。朝鮮の人も多いし。9月10月になったら沖縄の盆踊りしていたな。エッサ！エッサ！しながら。あっち(平尾公園の隣の空地)で毎年行われている。そのときは沖縄の人は横浜や、名古屋など全国からもここに寄ってくる。大規模に行われる。終戦になって多くの人帰った。特に朝鮮の人はほとんど帰った。その隣の商店街では沖縄のものを売っている店が多い。沖縄の人、朝鮮の人、日本の人も、やはり付き合ってみたら、気持ちはみんな同じ。やさしいお隣になってお互いにいい付き合いをしてきたっていう話をしてくれた。

★沖縄の人や朝鮮の人がこちに集まってきたのは材木関係の仕事が多かったからでしょうか？

沖縄の人は一人が出てきたら次々引っ張って来たのではないかと思う。

★この辺に材木置き場は何処にありましたか？

今昭和山になっている所が材木置き場だった。今はもう埋め立てした。

★材木置き場は何処に移ったんですか？

住之江の方に行った。今は材木市場になっていると思う。

(金 尚奎)